

目次

プログラム	3
ごあいさつ	4
基調講演	
ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロジーの活用	5
ロルフ・ブラッゲ（ピアニスト、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授）	
日本電子キーボード音楽学会と基調講演	6
パネルディスカッション&ラウンドテーブル	
1. 日本とアジアの電子オルガンコンクール ―コンクールから見えてくる電子オルガンの今後―	8
パネリスト：市川 侑乃、森田 知恵、曾 夢、古田 政伸	
司 会：柴田 薫、金銅 英二 書 記：森松 慶子	
2. 電子キーボードアンサンブルにおける現状と今後の方向性	10
パネリスト：初山 正博、西林 博子、マーク・マンノ、ハン・ヨンヒ	
話題提供：中地 雅之	
司 会：田中 功一、小倉 隆一郎 書 記：脇山 純	
ML (Music Laboratory) 関連パネルディスカッション	12
3. タテ線譜メソッドとは何か - 1 ―さまざまな視点からメソッドを考える―	14
話題提供者：原岡 和生、和智 正忠、齋藤 康之、友永 和恵、秋谷 万里子、五十嵐 優、	
垣浪 文美香、	
司 会：阿方 俊 書 記：小澤 真弓	
研究発表	
① 中国電子オルガン界の現状	16
曾 夢	
② グラフィックを用いた音楽の創作実践	18
―タブレット端末の効果的な活用を目指して―	
上出 美希	
③ タテ線譜による若年層のピアノ演奏	19
―ピアノ演奏への心理的距離の短縮―	
齋藤 康之	
④ エレクトーンのために書かれたオリジナル作品の芸術的意義	20
―3 回のリサイタルシリーズを通して考えた可能性―	
市川 侑乃	
⑤ M.L. システムを活用した初心者ピアノ指導における成果と課題	21
―学生に対する音楽技能調査の分析を通して―	
赤津 裕子	
⑥ タテ線譜メソッド経過発表-2	22
―導入・五線譜への移行・レッスンの流れ―	
阿方 俊、友永 和恵	
⑦ 平成音楽本学とハイブリッドオーケストラ	23
―その歴史とオペラ「魔笛」公演から見えてくるもの―	
中村 真貴、西林 博子	

- ⑧ アメリカの鍵盤教材：鍵盤テクニック、音楽能力の養成、キーボード・ハーモニー
 韓国のデジタルピアノオーケストラコンサートシリーズ・・・マーク・マンノ、ハン・ヒョンヒ 24

⑨ 電子キーボードによる音楽活動と健康増進に関する一考察・・・・・・・・・・和智 正忠28
ポスターセッション

- P-01 「Electone recital Vol.4」への経過・・・・・・・・・・市川 侑乃30
- P-02 音楽づくりにおけるタブレット端末の活用・・・・・・・・・・飯島 渉、結束 麻紀30
- P-03 電磁カクテル・・・・・・・・・・楠田 しおり31
- P-05 タテ線譜と自動伴奏システムを併用したピアノ練習・・・・・・・・・・斎藤 康之31
- P-06 老人ホーム入居者104歳ほかと電子キーボード・・・・・・・・・・坂井 康二32
- P-06 初心者のピアノコンチェルト曲集・・・・・・・・・・西山 淑子32
- P-07 音の出口（スピーカーの配置、共演者・聴衆の聞こえ方）・・・・・・・・森松 慶子33
- P-08 今の若者にとって電子キーボード音とアコースティック・ピアノ音にちがいはあるか
 ～NIRSによる脳血流測定～・・・・・・・・岩倉 聖月、田丸 智也、沖野 成紀33
- P-09 中国関連の電子オルガンイベント紹介（2014～2015）・・・・・・・・曾 夢34
- P-10 12回続いている電子ピアノオーケストラコンサートシリーズの紹介・・・・・・・・ハン・ヨンヒ34
- P-11 アメリカのグループピアノ教材によるML教室を用いたレッスン・・・・・・・・マーク・マンノ35

研究コンサート

- 一段電子キーボードによるハイブリッド・オーケストラの可能性・・・・・・・・・・36
 一段電子キーボードによるハイブリッド・オーケストラの可能性

曲 目：和泉宏隆《宝島》 A. シルヴェストリ《Back to the Future》 J. S. バッハ《チェンバロ協奏曲 第1番 第1楽章 d-Moll BWV1025》 P. I. チャイコフスキー《バレエ組曲「くるみ割り人形」Op. 71a》より W. A. モーツァルト《3台のピアノのための協奏曲「ロドリゴ」へ長調 KV 242》

演 奏：ロルフ・プラッグ、高澤ひろみ、椎野伸一、東京学芸大学学生・大学院生
 企画・指導：中地雅之

- 惜別 事務局 生頼俊秀さんを悼む・・・・・・・・・・阿方 俊 37

プログラム 11月15日(日)

- 10:00 受付 & ポスターセッション
- 10:30 開 会 中地 雅之(東京学芸大学音楽学部教授)
あいさつ 増田 金吾(東京学芸大学副学長)
出田 敬三(日本電子キーボード音楽学会代表幹事、平成音楽大学学長)
- 10:45 基調講演 ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロジーの活用
ロルフ・ブラッグ(ピアニスト、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授)
- 11:30 総 会
1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 報 告 1) 2014年度下半期～2015年度上半期活動報告
2) 2015年度上半期会計報告・同監査報告
3) その他
4. 協 議 1) 第12回全国大会候補地について
2) その他
5. 閉会の辞
- 12:00 昼 食 & ポスターセッション&ランチタイムミーティング
- 13:00 パネルディスカッション&ラウンドテーブル
① 日本とアジアの電子オルガンコンクール ―コンクールから見える電子オルガンの今後―
パネリスト:市川 侑乃、森田 知恵、曾 夢、古田 政伸
司 会:柴田 薫、金銅 英二 書 記:森松 慶子
② 電子キーボードアンサンブルにおける現状と今後の方向性
パネリスト:初山 正博、西林 博子、マーク・マンノ、ハン・ヨンヒ
話題提供:中地 雅之
司 会:田中 功一、小倉 隆一郎 書 記:脇山 純
③ タテ線譜メソッドとは何か―① ―さまざまな視点からメソッドを考える―
話題提供者:原岡 和生、和智 正忠、齋藤 康之、友永 和恵、秋谷 万里子、垣浪 文美香ほか
司 会:阿方 俊 書 記:小澤 真弓
- 14:30 休 憩 & ポスターセッション
- 14:40 研究発表
① 曾 夢:中国電子オルガン界の現状
② 上出 美希:グラフィックを用いた音楽の創作実践―タブレット端末の効果的な活用を目指して―
③ 齋藤 康之:タテ線譜による若年層のピアノ演奏―ピアノ演奏への心理的距離の短縮―
④ 市川 侑乃:エレクトーンのために書かれたオリジナル作品の芸術的意義
⑤ 赤津 裕子:M.L.システムを活用した初心者ピアノ指導における成果と課題
⑥ 阿方 俊、友永 和恵:タテ線譜メソッド経過発表―2
⑦ 中村 真貴、西林 博子:平成音楽大学とハイブリッドオーケストラ
⑧ マーク・マンノ、ハン・ヒョンヒ:アメリカの鍵盤教材、韓国のデジタルピアノオーケストラコンサートシリーズ
⑨ 和智 正忠:電子キーボードによる音楽活動と健康増進に関する一考察
- 17:00 研究コンサート
一段電子キーボードによるハイブリッド・オーケストラの可能性
曲 目:和泉宏隆《宝島》 A. シルヴェストリ《Back to the Future》 J. S. バッハ《チェンバロ協奏曲 第1番 第1楽章 d-Moll BWV1025》 P. I. チャイコフスキー《バレエ組曲「くるみ割り人形」Op. 71a》より W. A. モーツァルト《3台のピアノのための協奏曲「ロドリゴ」へ長調 KV 242》
演 奏:ロルフ・ブラッグ、高澤ひろみ、椎野伸一、東京学芸大学学生・大学院生
企画・指導:中地雅之
- 18:00 懇親会

ごあいさつ

出田 敬三（日本電子キーボード音楽学会代表幹事、平成音楽大学学長）

第 11 回全国大会に寄せて



今年、本学会は第 11 回目の大会を迎えることになりました。これまでの間、電子キーボードによる音楽の表現、教育、理論等の研究、および隣接諸科学に関する学際的研究協議を行ない、音楽文化の発展に寄与するという設立目的の下で活動して参りました。規模は決して大きいとはいえませんが、電子キーボードに特化した団体として、音楽関係の学会の中でもユニークな活動を実現していることは会員の皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて今回は、東京学芸大学に会場をお借りして大会を開催する運びとなりました。会場提供にご協力いただいた方々にここに厚く御礼申し上げます。過去、第 3 回と 7 回

全国大会においても会場をお借りしましたが、今年は会場のみならず、基調講演や研究コンサートおよび実行委員として数多くの先生方にご参加いただき、大きな盛り上がりを感じております。

本大会の特徴のひとつに国際活動がありますが、本年度は第 7 回の研究コンサートで特別出演されたザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学のロルフ・プラグ教授の演奏に加え、基調講演をしていただきます。それも国際化時代にふさわしい「ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロジーの活用」というテーマで、ザルツブルグと北京を結んで行なわれたピアノコンサートの模様を、映像を交えてお話いただきます。

これを機会に本学会においても本格的な国際交流化時代に備え積極的に対応していきたいと思っております。

午後からのパネルディスカッションは、電子オルガン部会が「日本とアジアの電子オルガンコンクール—コンクールからみえる電子オルガンの今後—」、ML (Music Laboratory) 部会が「電子キーボードアンサンブルにおける現状と今後の方向性」というタイトルで議論されます。

これに加えて、本学会としては初めての試みになります「ラウンドテーブル」と「ポスターセッション」を行います。このねらいは、より多くの方が情報発信の場を活用できる環境を作ることにあります。本日が皆様方にとりまして実り多い一日でありますことを祈念しております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 11 月 15 日

ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロジーの活用

ロルフ・プラッグ (ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授)

1. はじめに

話題提供－1 阿方 俊：電子キーボードによるピアノコンチェルトのいろいろ

- ・ チェコ 音楽教師サマーセミナー ハイブリッドオーケストラ
- ・ 台湾 東海大学附属小学校 電子キーボードアンサンブルによるピアノコンチェルト

話題提供－2 ハン・ヨンヒ：ソウル教育大学における電子ピアノアンサンブルコンサートシリーズ

- ・ コンサートシリーズの考え方
- ・ プログラムおよびアンサンブル編成

2. ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロジーの活用

- ・ JSEKM 第7回大会で東京学芸大学学生有志による電子キーボードアンサンブルと共演した印象
- ・ 電子オルガンとアコースティック楽器共生のDVDから感じること
- ・ 第11回大会コンサートの練習で感じたこと
- ・ ザルツブルグと北京を結んだピアノコンサートほか
- ・ Q&A



ロルフ・プラッグ教授プロフィール

ロルフ・プラッグ教授は、1959年生まれのドイツ出身のピアニストで、国際的な演奏活動を展開している。フライブルグ、ウィーン、ニューヨーク、ハノーファーの音楽大学でバドゥラ・スコダなどに師事。その間に、チャイコフスキー、エリザベートなど主要な国際コンクールに上位入賞を果たしている。

1991年よりザルツブルグ・モーツァルテウム大学の教授に就任し、ザルツブルグのサマーアカデミーをはじめ、各地からマイスターコースの講師として招聘されている。また、ドイツ、オーストリア、フランス、ベルギー、ロシアなど各地での国際コンクールの審査員も務めている。

日本電子キーボード音楽学会と基調講演

設立大会～2015 年

	会 場	講演者	講演タイトル
準備 大会 2005 年	昭和音楽芸術学院	吉田泰輔 国立音楽大学	音楽文化における電子楽器のもつ意義 と課題
		高萩保治 東京学芸大学名誉教授	日本電子キーボード学会の必要性 とその役割
第 1 回 2005 年	昭和音楽芸術学院	夏田昌和 国立音楽大学	作曲家からみた電子キーボードの可能性
第 2 回 2006 年	国立音楽大学	和智正忠 東京医科歯科大学大学院	電子楽器の未来を考える
第 3 回 2007 年	東京学芸大学	三澤洋史 第二国立劇場	電子オルガンによるオペラ、ミュージカル など劇場音楽上演の実践と将来—ハイブリ ッドオーケストラの可能性と問題点—
第 4 回 2008 年	洗足学園音楽大学	神野 明 日本大学	電子オルガン共演によるピアノ協奏曲から 見えてくるもの
第 5 回 2009 年	文教大学	古山俊一 尚美学園大学	コンピュータと音楽 —コンピュータと音楽—その魅力を探る—
第 6 回 2010 年	昭和音楽大学	シュテファン・メーラー ウィーン国立音楽大学	電子鍵盤楽器と私の関わり
第 7 回 2011 年	東京学芸大学	郭宗愷 台湾・東海大学	電子オルガンの芸術楽器・教育楽器として の社会認知と課題
第 8 回 2012 年	文教大学	梯 郁太郎 ローランド	電子楽器の開発を通して目指す未来
第 9 回 2013 年	昭和音楽大学	澤野 優 ミュージックトレード	楽器業界から見た電子楽器の現状と未来
第 10 回 2014 年	洗足学園音楽大学	嵯峨山茂樹 明治大学総合数理学部 教授/東京大学名誉教授	コンピュータ制御によるピアノコンチェル トの未来
第 11 回 2015 年	東京学芸大学	ロルフ・プラグゲ	ドイツ語圏のピアノ教育におけるテクノロ ジー活用

2014 年 第 10 回 日本電子キーボード音楽学会 全国大会 より（1）



総 会（代表挨拶）



基調講演 嵯峨山茂樹氏（明治大学総合数理学部教授）



研究コンサート

電子オルガン関連

日本とアジアの電子オルガンコンクール —コンクールから見える電子オルガンの今後—

パネリスト：市川 侑乃（演奏：ヤマハ）、森田 知恵（演奏・指導：カワイ）、
曾 夢（上海音楽学院：リングウェイ）、古田 政伸（横浜音楽院：
ローランド）
司 会：柴田 薫（昭和音楽大学非常勤講師）、金銅 英二（松本歯科大学教授）
書 記：森松 慶子（ライター、演奏・作編曲家）

国内における電子オルガンコンクールは、1964年に開催されたヤマハエレクトーンコンクールが最初といえる。今日までコンクール、フェスティバルと目的に合わせて名称も変遷しながら49年の歴史を刻んできた。またその間、多くの電子オルガンの演奏や指導に携わる優秀な人材を輩出している。続いて1967年にカワイが電子オルガンコンクールを開催し、今日まで継続開催している。ローランドは1991年からVTM(ビクター・テクニクス音楽教室)が開催してきたコンクールを引継ぎ、2001よりローランドオルガンミュージックフェスティバルとして現在も展開している。ハモンドはハモンド音楽教室の普及により生徒数が増加し、1980年ごろより各地区で展開してきたコンクールを全国規模に上げ、1983年よりハモンドジュニアコンクールとして開催してきた。その後、大人の部も加わり継続開催されてきたが2013年からは開催されていない。というように電子オルガン各社が独自にその頂点を目指すコンクールを展開している。昨年、本学会でも取り上げたアマービレ電子オルガンコンテストはメーカーの枠を越えた素のテクニックを磨くコンテストとして2011年から開催され、来年1月19日に第五回大会が大阪府羽曳野市のL I CはびきのMホールで開催される予定である。

一方、1985年ごろより中国国内の大学で電子オルガンの指導者養成が本格的に展開され始め、これに伴い1990年ごろよりヤマハエレクトーンコンクールが、そして2000年以降は複数のコンクールが中国国内で開催されている。さらに中国国産の電子オルガンも発売され、益々勢いと規模を大きくしつつある。

ここで、メーカー各社が展開しているコンクールや中国などアジアで開催されている電子オルガンコンクールの出場経験を持つパネリストやコンクールに向けて指導を行なっている音楽教室運営の立場からのパネリストなどと共に各種の電子オルガンコンクールの現状を検証し、コンクールを通じた電子オルガンの今後について模索してみたい。

パネリスト プロフィール

市川 侑乃（いちかわ ゆきの）

東邦音楽大学作曲科を首席にて卒業。ヤマハエレクトーンコンクール2009B部門第1位受賞。エレクトーン演奏者。現在、作曲家に電子オルガンのための作品を委嘱し初演する他過去の作品の再演をすることを軸にしたコンサート「Yukino Ichikawa Electone recital」を展開。12月10日、両国門天ホールで第4回目のコンサートを開催予定。

森田 知恵（もりた ちえ）

幼少期からカワイ音楽教室へ通い、ドリマトーンを学ぶ。カワイの講師養成所(カワイ音楽学園)へ進学、卒業後はカワイ講師として11年勤める。その後独立をし、「Morita Music School」を主宰。ドリマトーン奏者として演奏活動も行う。2008年カワイドリマトーンコンクール全国大会金賞受賞。12月27日にはエレクトーン奏者松本裕樹さんとのコラボレーションコンサートを開催。

曾 夢（そ ゆめ）

武漢音楽学院附属高等学校ピアノ科卒、上海音楽学院電子オルガン科卒、同学院修了（マスター）、朱磊（チュウレイ）教授に師事。インターナショナルエレクトーンコンクール2001 B部門入賞。電子オルガン奏者・指導者として有名。中国製電子オルガン(リングウェイ)の普及に尽力している。現在、上海音楽学院講師。2015年9月より1年間、昭和音楽大学特別研究員として在日中

古田 政伸（ふるた まさのぶ）

横浜アオバ楽器・横浜音楽院代表取締役社長、日本電子キーボード音楽学会監査役。横浜音楽院は1971年より横浜駅西口でビクトロンからテクニトーン、ローランドへと時代に対応しながら音楽教室を永年にわたり展開している。



第10回大会パネルディスカッション

ML (Music Laboratory) 関連

電子キーボードアンサンブルにおける現状と今後の方向性

パネリスト：初山 正博（世田谷区立守山小学校）、西林 博子（平成音楽大学）、
マーク・マンノ（台湾・東海大学）、ハン・ヨンヒ（ソウル教育大学）
話題提供：中地 雅之（東京学芸大学）
司 会：田中 功一（立教女学院短期大学）、小倉 隆一郎（文教大学）
書 記：脇山 純（平成音楽大学）

従来、本学会のパネルディスカッションと研究発表では、電子キーボードの活用に関して、ML (Music Laboratory) システムを利用して、ピアノの集団授業を効率的に行う事例が中心に取り上げられてきた。その要因として、音楽教育における電子キーボードの使用については、殊に幼児教育や保育士養成課程をもつ大学・専門学校で ML を活用するケースが多いことが考えられる。

一方、電子キーボードは、ピアノ以外の音色を内蔵する機種が多く、複数台の電子キーボードを使ったアンサンブルを様々な音楽授業に活用する可能性は大いにあり得る。最近の電子キーボードは、発音に使うサンプリングデータの容量が大きく、したがって、生音により近くリアルな音質に改良が進んでいる。ピアノ鍵盤の奏法に多少慣れていれば、発音させるのに数年のトレーニングを要する弦楽器や管楽器等のパートを演奏することができる。

本パネルディスカッションでは、このような電子キーボードの利点を活かしたアンサンブルを小学校・大学の音楽教育に活用しているパネラーの事例を報告していただき、さらに台湾・韓国・アメリカにおける現状について理解することにより、電子キーボードアンサンブルの今後の方向性についてディスカッションを進めたい。

1. テーマ「小学校における電子キーボードを含むアンサンブルの活用」

初山正博（世田谷区立守山小学校 主任教諭）

2. テーマ「電子キーボードによるアンサンブルの現状と今後の方向性～平成音楽大学 こども学科「ハーモニー」の授業を通して～」

西林 博子（平成音楽大学専任講師）

3. テーマ「アメリカと韓国における電子キーボードを使った音楽教育とアンサンブルコンサート」

ハン・ヨンヒ（ソウル教育大学教授）

マーク・マンノ（台湾・東海大学教授）

4. フロアからの質疑応答

5. 話題提供

ロルフ・ブラッグ教授の紹介および研究コンサートにおけるハイブリッド・オーケストラ
中地 雅之（東京学芸大学教授）

パネリストプロフィール

初山 正博 世田谷区立守山小学校主任教諭

東京学芸大学A類音楽教育学科卒業。音楽専科教諭として、稲城市立稲城第二小学校、新宿区立戸塚第三小学校、調布市立大町小学校、世田谷区立上北沢小学校、世田谷区立明正小学校を経て、現在は世田谷区立守山小学校主任教諭。（11年度より再任用）

その間、1983年から89年まで新宿区教育研究会音楽部長、91年から99年まで調布市教育研究会音楽部長、01年から05年まで世田谷区小学校教育研究会音楽部長を歴任する。

音楽専科教諭・教材編曲者として、鍵盤ハーモニカ・リコーダー・打楽器・電子楽器を活用した「児童一人一人を生かしながら、自己を表現する心と他人と力を合わせる心と能力を育てる合奏・アンサンブル活動」を提唱・実践している。

西林 博子 平成音楽大学専任講師（音楽制作・音楽理論）

作曲・指揮を出田敬三氏に師事。平成2年「第15回熊本県国勢調査の歌」作曲。平成10年玉名演奏者協会創立20周年記念公演モーツァルト作曲歌劇「フィガロの結婚」全幕アンサンブル編曲及び指揮。平成15年玉名演奏者協会創立25周年記念公演 KyoGen オペレッタ「狸汁」作曲・指揮。平成15年長洲町自主文化事業子供ミュージカル「青い鳥」作曲。平成16年荒尾市委嘱作品市民総踊り「スタートアップ炭坑節」作曲。平成16年より熊本市民会館自主文化事業公演ミュージカル編曲・指揮を務める。その他作曲・編曲等多数。

現在、平成音楽大学専任講師、玉名女子高等学校講師、熊本県文化懇話会会員、日本音楽著作権協会準会員、九州・沖縄作曲家協会会員、女声合唱団「平成カンマーコール」インスペクター。

マーク・マンノ 台湾・東海大学教授

カルフォルニア大学サンタ・バーバラ校でピアノの学士号、マスターを取得、音楽教育（ピアノ教育）のドクター。他に「音楽表現の本質の調査と初期段階のピアノ教育への応用」などの博士論文。

台湾・東海大学でピアノ、鍵盤テクニック、初見視奏、音楽基礎訓練、ウインドウズ用フィナーレなどを30年余り指導。アメリカ国家ピアノ指導者協会台湾支部顧問。

ハン・ヨンヒ 韓国・ソウル教育大学教授

梨花女子大学音楽学部ピアノ科卒業、同大学大学院修了。マンハッタン音楽大学大学院修了。ソウル芸術高等学校、梨花女子大学講師歴任。現在、国立ソウル教育大学音楽教育科教授。

ML教室を活用した基礎鍵盤楽器教育から、世界にも類をみないデジタルピアノオーケストラを結成してコンサート活動を行うなど得意な存在。

ML(Music Laboratory)関係パネルディスカッション

2007 年から 2015 年まで

年 度	テーマ	① パネリスト ② アドバイザー ③ 司会・書記
2007 年 東京学芸大学	M.L.の現状と将来展望	① 脇山 純（平成音大）森崎貴敏（昭和音大）影山建樹（清見潟大学塾） ② 柳田孝義（文教大） ③ 小倉隆一郎（文教大）・富田英也（白鷗大）
2008 年 洗足学園音楽大学	多様なニーズに対応する M.L.の指導方法と問題点を考える	① 遠藤雅夫（東京音大）二宮紀子（国学院大幼教専門学校）森直紀（昭和音大） ② 柳田孝義（文教大）中地雅之（東京学芸大） ③ 小倉隆一郎（文教大）脇山純（平成音大）
2009 年 文教大学	M.L.授業のためのテキストを考える I ー伴奏付けや鍵盤楽器基礎技能を中心にー	① 岡崎豊治（札幌幼児保育専門学校）赤津裕子（竹早教員保育士養成所）脇山純（平成音大） ② なし ③ 富田英也（白鷗大）森直紀（昭和音大）
2010 年 昭和音楽大学	M.L.授業のためのテキストを考える II ー伴奏付けや鍵盤楽器基礎技能を中心にー	① 柳田孝義（文教大）赤津裕子（竹早教員保育士養成所）脇山純（平成音大） ② なし ③ 森直紀（昭和音大）西山淑子（昭和音大）
2011 年 東京学芸大学	な し	な し
2012 年 文教大学 事例発表	1. クラス授業の中での「音の見える化」 2. 昭和音楽大学 M.L.テキストの開発	発表者：脇山純（平成音大） 三谷温、諸井野ぞ美、森篤史（昭和音大） 小倉隆一郎（文教大）・田中功一（国際学院埼玉短大）
2013 年 昭和音楽大学	教育現場からみた ML を活用した教育	① 大串和久（淑徳大）友永和恵・西林博子（平成音大）西山淑子・森篤史（昭和音大） ② 吉田泰輔（国立音大名誉教授） ③ 脇山純（平成音大）・小倉隆一郎（文教大）
2014 年 洗足学園音楽大学	スマホ時代の ML 教育ーICT を使った新しい教育ー	① 大串和久（淑徳大）井上洋一（愛媛大）田中功一（国際学院埼玉短大） ② 柳田孝義（文教大学） ③ 脇山純（平成音大）・小倉隆一郎（文教大）
2015 年 東京学芸大学	電子キーボードアンサンブルにおける現状と今後の方向性	① 初山正博（）、西林博子（）、マーク・マンノ（台湾・東海大学）、ハン・ヨンヒ（ソウル教育大学） ② 中地雅之（東京学芸大学） ③ 田中 功（国際学院埼玉短期大学）、小倉隆一郎（文教大学）、脇山 純（平成音楽大学）

2014 年 第 10 回 日本電子キーボード音楽学会 全国大会 より (2)



パネルディスカッション



懇親会



会場（シルバーマウンテン）

タテ線譜メソッド関連

タテ線譜メソッドとは何か - 1

—さまざまな視点からメソッドを考える—

話題提供者

1. タテ線譜メソッド指導者

- ・ 秋谷 万里子 (和幸楽器大宮店) シニア対象タテ線譜講座をヤマハ特約店音楽教室で実践
- ・ 五十嵐 優 (昭和音楽大学付属教室) シニア対象タテ線譜講座を5年間アシスト
- ・ 内田 智子 (東京芸術大学大学院) シニア対象タテ線譜講座を5年間アシスト

2. タテ線譜メソッドの試験的実践者

- ・ 垣浪 文美香 (東京学芸大学附属小学校) タテ線譜による鍵盤ハーモニカ導入の試み
- ・ 友永 和恵 (平成音楽大学) こども学科のピアノ初心者に対するタテ線譜メソッドの試み
- ・ 齋藤 康之 (木更津高等工業専門学校) 「魔法のピアノ」(タテ線譜) および「エウリディーチェ」(自動伴奏システム) による若者への鍵盤楽器の導入実験

3. タテ線譜講座受講者

- ・ 坂井 康二 (厚木市いきいきサポーター) 老人ホームで104歳の女性にリズム反応「影を慕いて」
- ・ 星野 博 (元公務員) タテ線譜講座2ヶ月目に「エリーゼの奇跡」を起こす。

4. 1~3以外でタテ線譜メソッドに意義を感じている方

- ・ 原岡 和生 (洗足学園音大) ミクロとマクロ (俯瞰) の関係・構造からみたタテ線譜システム
- ・ 和智 正忠 (医学・音楽研究家) 音楽が脳の活性化に最適であることの医学的研究とリズム実践
- ・ 齋藤 康之 (木更津高等工業専門学校) タテ線楽譜作成の論文指導と国際会議などで研究発表

企画・進行: 阿方 俊 (昭和音楽大学、タテ線譜メソッド考案者)

書記・報告: 小澤 真弓 (NPO 法人 市川シャンテ代表)

はじめに

- ・ ラウンドテーブルとは何か。その目指すものは
- ・ タテ線譜とタテ線譜メソッドの使い分けについて
- ・ テーマ、タテ線譜メソッドとは何か - 1 およびサブタイトルについて
- ・ 企画・進行者と書記の自己紹介

1. 話題提供者および参加者自己紹介

- ・ 話題提供者: タテ線譜、タテ線譜メソッドまたは音楽・教育との関わり
- ・ 参加者: 参加理由など

2. タテ線譜メソッド解説

- ・ 友永 和恵: タテ線譜および指導ポイントについて

3. タテ線譜メソッド指導の現場報告

- ・ 五十嵐 優: シニア対象講座5年間の一断面。タテ線譜から五線譜へ
- ・ 内田 智子: タテ線譜メソッドを取り巻く世界。オペラ、コンチェルトの愛好家へ
- ・ 秋谷 万里子: シニア対象のタテ線譜講座から見えてくるもの。指導結果と午前の教室活用

＊指導案

4. タテ線譜講座受講生の現場

- ・ 星野 博：「エリーゼの奇跡」が起こった経過。66 歳、81 歳のエリーゼ ＊DVD
- ・ 齋藤 康之：中高生の反応。「魔法のピアノ」
- ・ 友永 和恵：メソッドへの注目。楽しい、ブラインド、「月光」への挑戦意欲
- ・ 垣浪 文美香：小学生と鍵盤ハーモニカ学習。タテ線譜による音楽的導入の可能性の試み

5. タテ線譜メソッドに関するコンセンサス（案）

- ・ 対象者について：シニア ⇒ 若者 ⇒ 小学生 ⇒ 全世代対象のメソッド
- ・ メソッド（歌う・指番号の机上確認・鍵盤演奏・聴きあう）：タテ線譜から五線譜への自然移行 ⇒ 自発的・能動的学習（楽しみ）⇒ ゴーイングマイウエイの新しい音楽の享受法
- ・ メソッドから派生するもの：オペラなど新しい音楽愛好家の誕生

6. 音楽活動と脳

- ・ 坂井 康二：老人ホームト電子キーボード。104 歳の音楽反応（リズム反応）「影を慕いて」
- ・ 和智 正忠：音楽活動と脳の活性化。電子キーボードおよびタテ線譜メソッドのもつ利点⇒ 脳の活性化 ⇒ 健康人生

7. タテ線譜作成の現場

- ・ 五十嵐：昭和音大付属教室。五十嵐スタイル
- ・ 秋谷：和幸楽器。手製の楽譜。記譜の喜び
- ・ 原岡：邦楽器の記譜法との類似点があるが、しかし鍵盤楽器の想として広がる予感がする
- ・ 齋藤：木更津高専学生の卒業論文（タテ線譜作成）、本人の国際会議ほかでの発表 ⇒ 現状から見た実用化の見込み

8. 新しい音楽分野としてのタテ線譜メソッドの課題

- ・ 社会的認知度を高めるには
- ・ テキストとレパートリー集
- ・ 指導法の研究
- ・ 指導者研修体制
- ・ 楽譜（タテ線譜）作成ソフトとマニュアル
- ・ その他

9. まとめの詞

- ・ 参加者各人



中国電子オルガン界の現状

曾 夢 (上海音楽学院)

中国の電子オルガン教育は、ヤマハ音楽振興会とヤマハ株式会社のバックアップの下で1985年に中央音楽学院と上海音楽学院でエレクトーン講師養成コースが開設され、その後、瀋陽音楽学院で電子オルガン専攻が開始されたことから始まる。

その後、日本、台湾、ベトナム、韓国に中国が加わったアジアエレクトーンフォーラムが東京・こまばエミナースで開かれた。この時、既に中国を除く4か国の音楽大学(含、音楽学院)に電子オルガン専攻が設置され、電子オルガンがオペラやコンチェルトにも活用されている現状を見て、翌年に中央音楽学院、上海音楽学院、天津音楽学院、瀋陽音楽学院に正規の電子オルガン専攻が誕生し、今日に至っている。

中国の電子オルガン界はその経済発展に伴って大きく発展してきており、中国製の電子オルガンも生産されるようになってきた。本発表では、1. 電子オルガン教育、2. 電子オルガン関連のイベント、3. 国産の電子オルガン「吟飛(リングウェイ)」から現状報告を行う。

一、中国電子オルガン専攻の概要

- 1、教員の素質(電子オルガン、クラシックオルガン)
- 2、電子オルガン専攻のカリキュラム
- 3、電子オルガンの中国音楽界における利用状況
- 4、学生の就職状況

二、電子オルガン関連の主なイベント 抜粋

イベント	場所	開始年～
ヤマハエレクトーンコンクール	上海、北京など	1990年～
JSEKM(準備大会、第1、7、11回大会)	昭和音楽大学、東京学芸大学(中国参加)	2004年～
リングウェイE0コンクール(隔年開催)	アモイ、江蘇常州	2008～12年
第1回全国音楽大学シンポジウム	上海音楽学院	2007年～
イスメアジア大会	上海音楽学院	2009年
新芸術杯電子オルガンコンペティション	ハルビン友誼宮	2009～11年
アペカ電子オルガンコンペティション	香港、台湾東海大学、国立青少年センター	2011年～
サマーミュージックキャンプ in 東京	昭和音楽大学、新宿村スタジオ	2012年～
広州電子キーボード芸術フェスティバル	星海音楽学院	2012年～
リングウェイE0創作作品コンクール	江蘇常州	2012年～
アジア電子オルガン交流週間	上海音楽学院	2014年
リングウェイ国際E0コンクー	江蘇常州	2014年
上海之春国際芸術フェスティバル	上海東方芸術センター	2015年
National E. K. B. Competition in China	江蘇常州	2015年

三、国産電子オルガン「吟飛(リングウェイ)」の中国における著しい発展

- 1、吟飛(リングウェイ)電子オルガンの起源と製品の紹介
- 2、吟飛(リングウェイ)電子オルガンの主なコンクール
- 3、吟飛(リングウェイ)電子オルガンが中国の電子オルガン教育普及への貢献

今、私は中国から2人目の訪問学者(特別研究員)として9月から1年間、昭和音楽大学に在籍して即興演奏などの研究活動を行っており、国際交流の必要性を、身を持って体験している。今後のアジア、世界の電子オルガン音楽と教育の発展は、国際交流なくしては成り立たない。これを機会に両国の音楽文化交流がより一層盛んになることを願っている。

中国の電子オルガン活動の現状紹介フォト

1. リングウェイ最新2機種



2. リングウェイの普及活動 (教材の一端とレッスン風景)



3. 2015 “リングウェイ杯” 全国電子キーボードコンペティション



第1回中国音楽“小金钟”奖 (Small Golden Bell Award)

グラフィックを用いた音楽の創作実践～タブレット端末の効果的な活用を目指して～

上出 美希 (東京都三宅村立三宅中学校)

三宅村立三宅中学校は、伊豆諸島の三宅島にある唯一の中学校である。2000年の全島避難から、2005年に帰島し、統廃合を経て、現在の三宅中学校になった。今年度は各学年10名前後であり、全校生徒31名である。

タブレット端末(iPad)は、昨年度より全教員・生徒が授業で使えるようになった。主に授業内で活用し、ICT機器の活用を通じた生徒の学力を高める指導法をテーマとし、校内研修を行っている。音楽科では、歌唱や創作活動において活用を行っている。家庭への持ち帰りはまだ出来ないため、授業内や休み時間を利用して、タブレット端末の活用を進めている。

本発表では、グラフィックを用いた音楽実践として、図形楽譜と関連させた創作活動について紹介する。新規採用として三宅中学校に赴任した初年次、2年次の授業における成果や課題から、タブレット端末を活用することによって、創作活動への意欲を引き出し、音楽の多様性に気づき、音楽表現の技能をさらに高めるための実践を試みた。

1. これまでに行った創作の授業実践について

	活動内容	成果と課題
初年次	・1分間のサウンドスケープを体験する ・聴こえてきた音を図形楽譜で表わす ・音楽室内から、楽器を1つ選ぶ ・周りの音を楽器の音で表現する	・図形楽譜を使用することで、簡単に書き留めておくことができた ・使用楽器が重なってしまう ・次の授業で図形楽譜から表現することが難しい
2年次	・三宅島の海岸の映像(音なし)から、聴こえてきそうな音を考える ・どのような流れでその音を鳴らすか、構成を考える ・考えた音を楽器や身近なものを使って表現する	・音を示さなかったことで、自分で考えて表現を工夫することができた ・奏法を知っている楽器のみ使用しようとする ・前時に考えた構成を、図形楽譜だけでは覚えていられない

2. 本実践について

○教科・学年：音楽科・中学1年生

○題材名 「図形楽譜を使って、音やイメージを表現しよう」(創作イ) 4時間扱い

○題材の目標

- ・音素材の特徴を感じ取り、イメージと関連付けて、音楽を創作する活動に意欲的に取り組む。
- ・イメージに合った音素材を選択し、表現を工夫することができる。
- ・音素材を工夫し、図形楽譜に表現しながら、音楽をつくることができる。

○実践内容

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
・図形楽譜とはどのようなものかを知り、様々な音楽の表現方法について知る ・自分のテーマに合った絵を3枚以上描く	・楽器を1つ選ぶ ・選んだ楽器の奏法を工夫しながら、1枚ずつの絵に音をつける	・絵をつなぎ合わせ、動画をつくる ・動画に音をつける ・さらに表現を工夫する	・工夫したことをまとめる ・全体に発表する

○使用したアプリケーション

ibisPaint X (お絵描きアプリ), GarageBand (音楽作成アプリ), iMovie (動画作成アプリ)

3. まとめ

生徒の作品や感想から、タブレット端末を活用した創作活動は、創作活動の意欲につながる

と同時に、音楽表現の高まりを感じることができた。どの生徒もが、楽しく自分のイメージを形と音にする創作活動ができるよう、さらなる実践を重ねていきたい。



図形楽譜例

タテ線譜による若年層のピアノ演奏 ―ピアノ演奏への心理的距離の短縮―

齋藤 康之 (木更津工業高等専門学校 情報工学科)

1. はじめに

タテ線譜は昭和音楽大学の阿方 俊 先生が1985年に提唱した新しいピアノ楽譜表記方法である。ピアノ演奏時に用いられる五線譜は、上下方向が音高を、右方向が時間の流れを示すのに対し、タテ線譜は左右方向が音高を、下方向が時間の流れを表す。音符は円形の「節」で表し、節の位置が鍵盤位置と対応している。また、節と節を連結する「枝」によって、次の音階が下か上か(鍵盤の左か右か)を視覚的に分かりやすくしている。これに加えて、節内には指番号が記されており、すなわち、演奏者は節の位置に対応する鍵を指番号に従って順番に叩くだけで、正しい運指で演奏できる(図1)。

五線譜は音符の示す音高を読み、対応する鍵を叩いて演奏する。相応に訓練して慣れてしまえば、ほぼ考えることなく自然に読譜しながら演奏できるが、逆にいえば、練習しなければ思い通りに演奏できないことを意味する。そのため、ピアノを練習したことのない人にとっては、ピアノを演奏することはハードルが高く、心理的距離が遠い。一方、タテ線譜は直感的であり、容易に演奏できる。

2. 木更津高専での魔法のピアノ講座の開催

2015年5月18日に木更津高専にてタテ線譜を用いたピアノ教室を開いた。図2に示すA4ポスターのように、誰でもピアノが弾けること、超初心者を対象にしていることを謳ったところ、13名の学生が参加した。自己紹介(名前、ピアノや音楽経験について)の後、指番号について確認した。楽曲をいきなりピアノ演奏するのではなく、歌を歌う、机を叩く、電源を切った電子ピアノの鍵盤を叩く、といった練習を経て、実際のピアノ演奏を行った。また、図1内のオレンジの四角で示されるCやGは左手パートのコード名を示しており、その練習も行った。本講座は90分という短い時間(正味の練習時間はもっと短い)であったが、講座が終わる頃には学生たちは両手でピアノを演奏するに至っていた。

3. 木更津高専のオープンキャンパス、IWEEE2015でのピアノ演奏体験

木更津高専のオープンキャンパスにおいて、自動伴奏システムのデモを行っている。右手のメロディ演奏に追従してテンポの揺れに応じて左手パートの伴奏をつける。昨年度までは五線譜を用いて当デモを見学した中学生や保護者に演奏を体験してもらっていたが、演奏を敬遠する人が多かった。今年度、初めてタテ線譜を用いたところ、見学した全ての中学生が「チューリップ」を最後まで演奏した。

また、国際ワークショップ IWEEE2015においても同様のデモを行い、外国人の方にも演奏体験して頂いた。同じく、楽曲を最後まで演奏でき、好評を博した。

いずれも多少運指を誤ることもあったが、前章で述べた魔法のピアノ教室とは違い、本格的な練習を経由しない初見での演奏としては上出来であり、多くの方に体験してもらえた。

4. まとめ

タテ線譜による若年層のピアノ演奏について報告した。五線譜では敬遠されていたピアノ演奏も、タテ線譜では演奏体験をしてもらえた。昭和音楽大学附属音楽教室では月に2度のペースでシニア向けピアノ教室を開いているが、若年層のピアノ練習の導入教育にも十分効果的であることが示唆された。

今後は、運指の正しさを認識する、タテ線譜の総合的なピアノ練習ソフトウェアの開発を目指す。

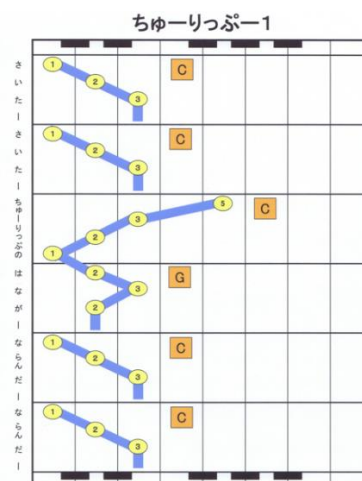


図1 童謡「チューリップ」のタテ線譜

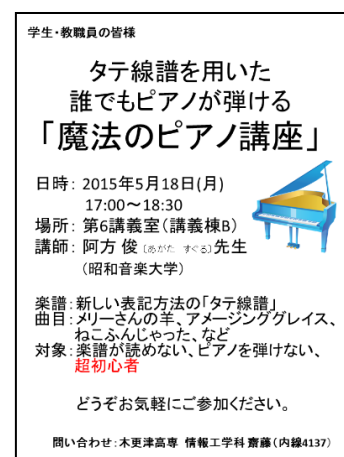


図2 魔法のピアノ講座のA4ポスター

エレクトーンのために書かれたオリジナル作品の芸術的意義

—3回のリサイタルシリーズを通して考えた可能性—

市川 侑乃（電子オルガン奏者）

現在のエレクトーン界の傾向として、様々なジャンルの既存の曲をエレクトーン用にアレンジし、演奏したり、オペラやミュージカルなどの伴奏をエレクトーン一台で担うというスタイルが主流となっている。オーケストラやバンド等の代用品、というような扱われ方だが、そうではなくエレクトーンにしかできないものとは何か、この楽器から何を発信でき、何を伝えられるのか。既存の作品を演奏するだけに留まらない、一楽器として芸術作品を生み出すことも出来るエレクトーンの可能性を追求するため、年に2回のリサイタルを企画し公演を行ってきた今までの経験を元に、エレクトーンオリジナル作品の芸術的意義を発表したい。

1. 委嘱作曲家との関わりの中で見えたエレクトーンの可能性

- ・アコースティック楽器との違いを武器に、電子楽器だからこそ可能な挑戦とは
- ・リサイタル内のプログラム、ブレトクを通して得た作曲家からのメッセージ

2. 過去に作曲され、埋もれたままのエレクトーン作品を取り上げ再演することの意義

- ・他楽器との大きな違いである、再演によってレジストレーションが奏者により変わる事
- ・初演当時とは違う現在の機種で再演することについて

3. リサイタルの活動が続ける中で見えてきた課題点

- ・始めてこの楽器に触れる作曲家へのマニュアル作りの在り方
(第3者が見ても分かるようなマニュアルとは)
- ・電子楽器の限界に向き合う
- ・記譜とレジスト作りの問題点
- ・作品の記録媒体の重要性(録音、動画、印刷物)

4. 今後のエレクトーンの可能性

- ・楽器関係者のみならず、エレクトーン界以外の違う分野からの見識の必要性
- ・エレクトーン1台のみならず、他楽器とのコラボ、コンピューター等の現代のテクノロジーとのコラボ等の必要性

ML システムを活用した初心者のピアノ指導における成果と課題

一学生に対する音楽技能調査の分析を通して一

赤津 裕子 (竹早教員保育士養成所)

1 研究の経緯

本校では5年前よりピアノ初心者を対象に、MLシステムを用いた初心者用のカリキュラムの作成に着手しており、これまでに次のような内容に取り組んできた。

まず、保育者に求められるピアノ技能から、学生が到達すべき目標を明確化し、「音楽個人カルテ」を作成した。次に学生の実態からつまづき原因を明らかにし、指導内容について、バイエル教則本を見直し、子どもの歌の分析を行い、30回の授業についてねらいの明確化・内容の精選・教材の妥当性及び配列などの検討を行い、「子どもの歌学習チェックリスト」「ピアノ初心者用年間計画」を作成した。指導方法については、個人レッスンを見直し、MLシステムの可能性を模索し、90分授業を5つの柱で構成した総合的な音楽活動による授業の展開を試みた。また模範演奏による「子どもの歌DVD」を作成し、配布した。担当講師は年間10回にわたり研修を行い、授業におけるねらい・内容・方法・学生の様子など「振り返り」を行い、シラバスの内容を検討した。

2 研究の目的

新しいカリキュラムによる取り組みを5年間にわたり行い、手ごたえはあったが、実際にMLを用いた授業により、初心者がいかにピアノの基礎技能を習得し、音楽能力を高めることができたかを明らかにしたいと考えた。音楽的な技能が形成される過程についてその成果と課題を検討することが本研究の目的である。

3 研究の方法

- ①期間・・・平成26年度前期9月、後期2月
- ②対象・・・各クラス6名、計18名の学生
- ③調査項目・・・ピアノ演奏技術・音楽基礎能力・表現力・心情面
- ④ 内容・・・課題曲の演奏、初見奏、音階奏、授業に対するアンケート

4 結果・考察

ピアノ演奏技術及び表現力については、タッチがしっかりし、指先で音のコントロールができるようになり、フレーズを感じて弾けるようになってきた。

音楽基礎技能については、音の高低、主要三和音に関してほぼ理解し、初見奏も正しく弾いていたが、音の長さに関する初見奏と拍を正しく保って付点のリズムを弾くことは難しかった。拍節感が身に付く音楽活動やリズム譜に慣れることを早い段階から取り入れることが必要であると感じた。

心情面ではよく弾けると思われる学生であっても「まあまあ好き」にとどまっている。譜読みの段階や弾けるようになるまでに時間がかかり、苦労が多い様子である。しかし一方で「弾きたい曲が弾けるようになり嬉しかった」、「自信がついた」、「もっとがんばりたい」などの肯定的な感想が多く見られた。また多くの学生が授業について「わかりやすい」と回答していた。

タテ線譜メソッド経過発表 - 2

—導入・五線譜への移行・レッスンの流れ—

阿方 俊 (昭和音楽大学)

岩永 和恵 (平成音楽大学)

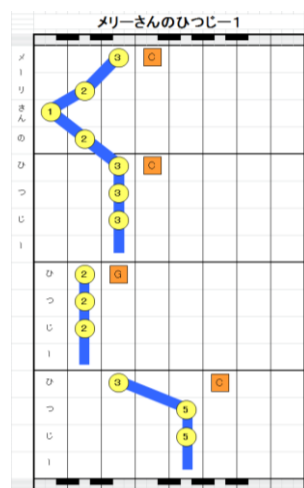
タテ線譜を活用した教育方法であるタテ線譜メソッドは、日本で実践されて5年が経過した。昨年は、経過発表①として「タテ線譜メソッド」導入に関するシニア (昭和音楽大学・生涯学習講座) および若者 (平成音楽大学・幼稚園教員養成) を対象とした実践例を紹介した。本年は受講者がタテ線譜から五線譜への移行などの実例を示して、このメソッドがどのような方向で発展していきつつあるのかを紹介したい。

まず、はじめてタテ線譜を耳にする人たちのために、タテ線譜メソッドの説明から始める。

1. タテ線譜メソッドの導入のポイント

タテ線譜メソッドとは、従来の五線譜とは異なった発想による右の図のようなタテ線譜を使った鍵盤楽器導入のメソッドである。五線譜によるピアノ導入が楽譜の理解すること、すなわち「理論」から始まるのに対して、よく知られた既知曲を歌うこと、すなわち「音楽」で始まる。

次に「指番号」を確認し、「鍵盤外の所」でメリーさんのひつじなどを歌いながら指でなぞる。スムーズに指が動くようになったところで、タテ線譜のドの所を鍵盤のドに合わせて弾く。*DVD エリーゼの奇跡



2. タテ線譜メソッドから五線譜への自然な移行

タテ線譜から五線譜への移行のポイントとして次の3点が挙げられる。

選曲：選曲 自分が弾いてみたい曲を自分で選ぶ (したがって受講者によって曲目が異なる。与えられたものでなく自分が選曲することにより、能動的になり自主的に練習を行う)

編曲：難しい箇所を簡単化する。コードシステム的処理 (部分編曲)

難しい部分をカットする。好きな曲の部分演奏 ⇒ エリーゼのために

演奏：タテ線譜システムの最初に音楽 (歌) ありきの精神は、五線譜に移行しても継続 *DVD

2. タテ線譜メソッドの学習内容

最初、受講者はタテ線譜で曲を弾いて楽しむことに満足していたが、最近は次の内容に発展。

理論：音楽的发展 (五線譜移行) の下準備 ⇒ 楽典的要素の取り入れ

タッチ：シニアハノン ⇒ よい音追求のための指のトレーニング

選曲：自由曲 ⇒ 五線譜をチャレンジ、タテ線譜を自分で作成、タテ線譜満足派の3つに分類

合奏：アンサンブル

鑑賞：音楽交流：、ソロ ⇒ 外部コンサート ⇒ 音楽界の活性化

まとめ

シニアの人たち対象にタテ線譜による鍵盤楽器導入がはじまって5年が経過して、対象年齢が青少年から義務教育の生徒まで導入の有用性が実験されはじめた。また、新しいタイプの楽譜作成方法として MIDI ファイルからのタテ線譜の自動生成 (研究発表③ 齋藤康之) や医学分野からみた音楽活動による脳の活性化 (研究発表⑨ 和智正忠) など幅広い分野からも論じられるようになってきた。興味のある方との更なるジョイントスタディを望みたい。

平成音楽大学とハイブリッドオーケストラ —その歴史とオペラ「魔笛」公演から見てくるもの—

中村 真貴 (平成音楽大学)

西林 博子 (平成音楽大学)

ハイブリッドオーケストラについて、今後益々活用されていくであろうこの演奏形態を本学のハイブリッドオーケストラの歴史を振り返りながら今後の方向性を探ってみる。

1. ハイブリッドオーケストラとは何か

年々盛んになってきている「ハイブリッドオーケストラ」といっても、多種多様であることと、人それぞれによっても受け取り方が違う。これはオーケストラと一口によっても、そこには室内オーケストラから、1管、2管、3管編成、またウインドオーケストラ、ストリングオーケストラなど特別な編成のものまで多くあるが、慣用的に用いられているハイブリッドオーケストラという言葉は、電子オルガンそのものが多音色でオーケストラ的サウンドを出すことが可能なため、いろいろなタイプのものが存在する。もともとのハイブリッド(hybrid)の意味は、異種混合ということであり、最近ではハイブリッドカーをはじめとしたハイブリッドを冠した名前は多くみられる。「ハイブリッドオーケストラとは何か」についての定義は今後に待たねばならないが、ここでは電子楽器(電子音)と管弦打楽器(アコースティック音)によるアンサンブルとしたい。

2. 平成音楽大学にみるハイブリッドオーケストラの演奏形態

本学では、熊本音楽短期大学時代を含めて20数年、ハイブリッドオーケストラの試みをしてきた。この機会に平成音楽大学なりに考えてみたい。

「音楽の世界」(2015年3月号、阿方 俊)によると、日本のプロのオペラ団が最初にエレクトーンをオペラに取り入れた記念すべき公演は、1990年新宿モーツァルトサロン東京室内歌劇場の「サマー室内オペラ公演」ということである。これに対して平成音楽大学独自のハイブリッドオーケストラによるオペラ公演は、1996年の平成音楽大学の附属機関である熊本オペラ芸術協会での、出田敬三作曲オペラ「おてもものばってん嫁入り」が最初のものである。

これは、創作オペラとして本来のオーケストレーションを踏まえたうえで、電子オルガンを想定して作曲され、打楽器(アコースティック音)と共存するスタイルである。この形態で平成19年第49回熊本県芸術文化祭オープニングステージ(熊本城築城400年記念)では出田敬三作曲オペラ「南風吹けば楠若葉」が公演されている。ここで重要なことは、ハイブリッドオーケストラを用いることの目的は、電子楽器(電子オルガン)と伝統楽器との共生により、少ない人数で「大編成の生オケに似せること」でなく、この演奏形態ならではの新しい響きの追求にあると思われる。本学でのこの形態の成功の鍵は作曲者自らの指揮による公演であるということ、卓越した奏者の存在も欠かせない条件であったと考えられる。

*原作がハイブリッド・オーケストラであるもの(電子オルガンと打楽器)

・「おてもものばってん嫁入り」

・「南風吹けば楠若葉」(のちに、数曲は、オーケストラ用に編曲され演奏された)

*原作がオーケストラ→(ハイブリッドオーケストラに編曲されたもの)

オペラ「細川ガラシャ」

ミュージカル「ウエストサイドストーリー」「オペラ座の怪人」「エリザベート」

「回転木馬」「ジキルとハイド」「レ・ミゼラブル」「ミス・サイゴン」

(1994年からの電子オルガンフェスティバルにおいて公演された)

3. オペラ「魔笛」～肥後くまもと魔法の笛～

2014年10月、熊本オペラ芸術協会が公演したモーツァルト作曲「魔笛」は、異空間オペラと～肥後くまもと魔法の笛～とされ、熊本ならではの演出、映像を利用した新しい試みで公演された。オーケストラは弦楽器パートを弦楽4部各1名、コントラバス2名とこれに電子オルガン3名が加わったハイブリッドストリングス、それに管打楽器と共生したハイブリッドオーケストラが用いられた。弦の響きをオルガンで膨らみを持たせる手法で、弦楽器にアコースティックとハイブリッドが共存するため、PAの効果は大切であった。序曲のスタート時には、ちょっとした違和感があつたとしても、数分後にはハイブリッドかどうかの区別がつかなくなり、今後の新しいフルオーケストラに代わるハイブリッドオーケストラの形態であるといえるのではなかろうか。



鍵盤テクニック：音楽能力の養成

キーボード・ハーモニー

マーク・マンノ (Mark Manno)
台湾・東海大学 (Tunghai University)

カルフォルニア大学サンタ・バーバラ校でピアノの学士号、マスターを取得、音楽教育（ピアノ教育）のドクター。他に「音楽表現の本質の調査と初期段階のピアノ教育への応用」などの博士論文。

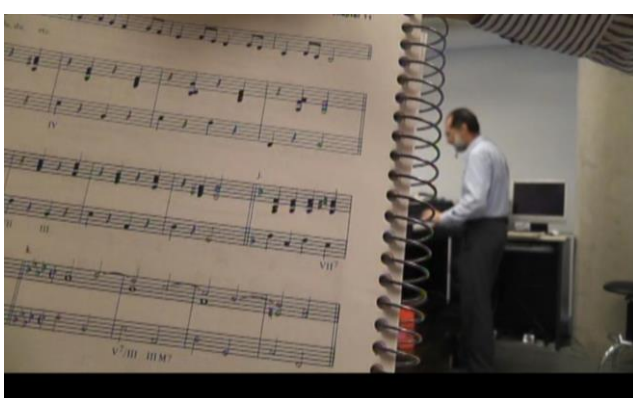
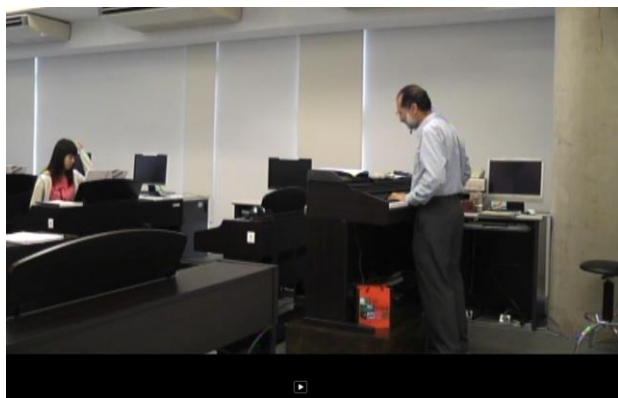
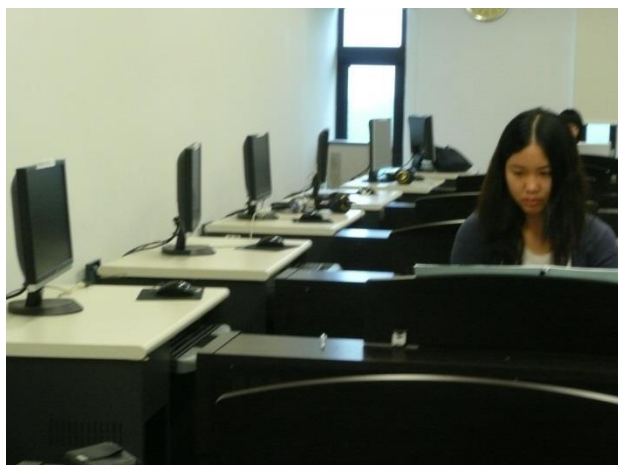
台湾・東海大学でピアノ、鍵盤テクニック、初見視奏、音楽基礎訓練、ウインドウズ用フィナーレなどを 30 年余り指導。

アメリカ国家ピアノ指導者協会台湾支部顧問。

私は約 25 年間、アーサー・フラッケンポール (Arthur Frackenpohl) のテキスト、鍵盤ハーモニー (Harmonization at the Piano) をキーボードスキル講座の授業で使用してきた。この間、多くの新しいテキストが出版されたが、この本は音楽専攻の学部生のキーボードスキル講座のためのもっともよいテキストであり続けている。

個人的な経験では、理論を教えている時に時間が取れば、学生の顔を読み取る技術も共有されるようになる。一般的に学生は年々シャイになる傾向があり、学生のキーボードのバックグラウンドは弱くなってきているので、これは便利な技術になってきている。

今回、時間的制約のためにこの本の概要を説明することしかできないが、均整のとれた内容を紹介したい。



HARMONIZATION AT THE PIANO, 6TH ED. ©1991

By Arthur Frackenpohl, (1924-)
American composer and Professor
Emeritus at the Crane School of
Music at the State University of
New York at Potsdam

contents

Preface, vii
Acknowledgments, ix
Suggestions for Instructors, x

Chapter

1. Accompaniment and melodic patterns
 - A. One hand accompaniments, 1
 - B. Two hand accompaniments, 3
 - C. Right hand patterns, 6
 - D. Adapting four part vocal music for the piano, 9

Primary chords

2. Tonic chord and dominant chords, 11
3. Subdominant chord, 29
4. Primary chords in minor, 43

Secondary chords

5. Supertonic chords, 55
6. Submediant chords, 69
7. Mediant chords, 81
8. Secondary chords in minor, 91

Secondary dominants

9. Tonic dominant seventh, 103
10. Supertonic dominant seventh, 115
11. Additional secondary dominants, 127
12. Diminished sevenths, 155
13. Modulation and mutation, 165

14. Score Reading, 177

- A. Two part vocal music, 179
- B. Three part vocal music, 180
- C. Four part vocal music, 186
- D. Five part vocal music, 190
- E. Instrumental music
 - Strings, 191
 - Woodwinds, 195
 - Brasses, 198
 - Full orchestra, 202

15. Jazz chording, 204

- A. Symbols used in jazz chording, 204
- B. Playing from sheet music and lead sheets, 204
- C. Jazz, 206
- D. Blues, 211
- E. Latin, 214
- F. Rock, 216
- G. Ballads, 218
- H. Jazz waltzes, 220
- I. Lead sheets, 221

16. Technique, 224

- A. Five-finger exercises, 224
- B. Progressive exercises, 226
- C. Scales, 230
- D. Arpeggios, 235
- E. Chords, 239

17. Theory, 242

- A. Chord progressions and substitute chords, 242
- B. Suggestions for harmonizing a melody, 244
- C. Transposition, 246
- D. Playing by ear, 246
- E. Improvisation, 246
- F. Instruments in piano classes, 248
- G. Instruments and transpositions, 250
- H. Introductions, 252
- I. Analysis, 253

Hymn-Chorale Index, 255

Song Index, 256

Piano Ensemble Index, 257

Instrumental Index, 257

General Index, 259



デジタルピアノオーケストラ

コンサートシリーズ

ハン・ヨンヒ (Han Younghee)
ソウル国立教育大学音楽教育学部

* 翻訳と要約の時間が取れなかったため、以下原文を載せる。

Digital Piano Orchestra at Seoul Nat'l Uni. of Education

梨花女子大学音楽学部ピアノ科卒業、同大学大学院修了。マンハッタン音楽大学大学院修了。ソウル芸術高等学校、梨花女子大学講師歴任。

現在、国立ソウル教育大学音楽教育科教授。

ML 教室を活用した基礎鍵盤楽器教育から、世界にも類をみないデジタルピアノオーケストラを結成してコンサート活動を行うなど得意な存在。

The purpose of this study is to introduce playing music together as a small group in elementary school. Digital piano can produce the effect of various instrumental conditions in expressive ways. Students are more to stay motivated and interested. The digital piano ensemble could enhance the musicality of beginners and intermediate students at university and double major students in piano at music college

. At the very beginning, it helped to save more time than to have a private lesson using headphone without bothering other fellow students. Later, it becomes the fabulous ensemble in itself.

Digital piano ensemble makes the student affluent in a way of learning and teaching behavior in music education. To make them experiencing the orchestral music is such a good social activity for the players. Piano is the solitary profession, so they don't have the chance to cooperate with their colleagues. Ensemble activities make the student happier than practicing by himself.

The population of piano lovers are getting declined nowadays. It is necessary to have collaborative activities in piano class as possible as they can. That is our responsibility of enhancing knowledge about the teaching and learning music education nurtured children by positive atmosphere in elementary school as well. It is the hope that this study would inspire and support an interest which is worthy of re-evaluation in children's ongoing music behavior.

There are not many elementary school which are well equipped with the full orchestral instruments like viola, oboe, tuba, timpani, double bass, etc. There are few players as violist, oboist, tubaist, timpanist either. Those are too big to managing by the children. Digital piano would be the alternative. It can make the instruments' sound in an exact pitch from the digital piano so far.

In digital piano ensemble class, I teach the orchestral music with percussion let my students learn the practical knowledge of the sound of orchestra. They integrate the music at the same time all together. Surprisingly, it had become an orchestral music gradually.

I have several concerts showing them the capability of digital piano every year. In a concert

program, we played the 4 part chorus pieces, Baroque chamber music like Vivaldi violin concerto, Bach 2 or 3 harpsichords concertos, symphonic pieces, concertos and so on. Nowadays, there are 3 or 5 digital pianos, a synthesizer, percussion and acoustic piano on same stage

3 to 5 professional pianists, a percussionist and a composer usually participated the program all together. We have been discussing in details previously preparing the concert how we manage the program by suitable sounds forward. It is the most difficult procedure to fix it.

Sometimes I have the concerts played with 2 pianos, 8 hands in turns. Because I have often unsatisfied with the acoustic condition during digital piano concerts. What do I think it make uncomfortable result? I think there seems to be little problematic difficulties. For example, first, the violin sound is not perfect yet. Second, pedal, crescendo and decrescendo in a delicate keyboard touch is not satisfied with the sound. Third, lack of attack sound on time should be improved, and so on. So it will be the task forward to manufacture the electronic keyboard sound better than ever. The better you manufacture the good digital piano to substitute the acoustic one, we could have more perfect piano ensemble activities.

Piano- Orchestra Concert Series

	Date	Venue	Main pieces
1	2015.9.8	SNUE(Seoul Nat'l University of Education)	2 Piano 8 Hands: Mozart Eine Kleine Nacht Music, Weber Invitation to the Dance. Beethoven Symphony No.5, 4th Mov., Gounod Faust Waltz
2	2015.3.31	SNUE	Grieg Peer Gynt Suite, Prokofieff Peter and the Wolf, Straus Spring Waltz, Liszt Radetzky March
3	2014.12.2	SNUE	The Pirates of the Caribbean, Schubert Piano Quintet Die Forelle, Rossini Wilhelm Tell Overture
4	2014.4.30	SNUE	Dvorak Piano Quintet, Bach 2Piano Concerto, Cherny Wiener March, Kim Road to School, Piazzola Lieber Tango
5	2012.11.16	SNUE	Dvorak Piano Quintet Op.81, Liszt Rakoczy- March
6	2012.5.30	SNUE	Bach Concerto for 2Piano BWV1063, Mozart Concerto for 2Piano, K.365,
7	2011.11.24	SNUE	Bach Concerto for 3 Claviers & Orchestra
8	2011.6.16	SNUE.	Beethoven Egmont Overture, Mozart Piano Concerto, Bach Concerto for 3 Pianos, etc.
9	2011.6.16	SNUE	Piano Ensemble for 2 Piano 8 Hands
10	2010.12.16	SNUE	Beethoven Symphony No.5, 1Mov., Mozart Piano Concerto. K.467, Chopin Andante Spinato & Grand Polonaise Brillante
11	2010.5.13	SNUE	Tchaikovsky The Nutcracker Suite, Saint- Saens, La Carnival de Animaux, Pachelbel Canon
12	2002.5.16	Kumho Art Hall	Bach Concert for 2 Piano, Mozart Concertos in Eb, Schubert Piano Quintet

The members of the digital orchestra as follows:

Han Younghee(digital piano 1): String Part

Kim Dohee(digital piano 2): Woodwind Part

Kim Haeryung(digital piano 3): String Part

Cho Younhee(digital piano 4): Woodwind Part

Lee Bohyun(acoustic & digital piano): Woodwind Part.

Kim Kyungja(synthesizer): Brass Part, Percussion

Jang Kibeum(percussion): BassDrum, Snare Drum, Timpani

電子キーボードによる音楽活動と健康増進に関する一考察

和智 正忠

はじめに

ここでは人が音楽活動をするとき、脳、神経およびそれにつながる器官を通じて人体がどのように反応するかを概観し、電子キーボードの特性を生かした音楽活動が高齢者の健康増進に寄与できる可能性について考えてみたい。

音楽と健康

最近では自然環境や社会環境の急激な変化によって、幼児から高齢者に至るまで様々な心理的ストレスに晒されている。これらはアレルギーの発症や新型コロナウイルスに感染するリスクを高めると考えられているので、心理的ストレスにうまく対処する事は健康保持にとって重要である。

大脳で心理的ストレスが感知されると、自律神経系や内分泌系を通じて免疫バランスが悪化する。免疫力が弱いと感染性病原体への抵抗力が低下する。逆に過度な免疫の亢進はアレルギーや自己免疫症状を引き起こす。最近の研究から音楽活動によって心理的ストレスが軽減される事を示す報告がされている[1-3]。但しその音楽活動は「自分にとって楽しい」ものであるか、例え苦しいレッスンや練習であってもそれは“自発的行為”でなければならない事に留意する必要がある。

国立長寿医療研究センター、島田裕之チームによる成果[4]

軽度認知障害 (MCI; Mild cognitive impairment) の人達の内、有酸素運動と同時に様々な脳を賦活する課題 (計算する、会話する等) を実施するプログラムに参加した群は、それに参加しなかった群に比べて、認知障害の進行が遅かった。この結果に基づいて、認知症予防プログラム “コグニサイズ Cognicise” が作成された。

結語

演奏や歌唱も運動と同時に様々な脳の賦活を伴う事から、MCI の認知障害の進行を遅らせる事が出来ないか？

電子キーボードの利点として誰でも簡単に好みの音色を選んで発音できる点が挙げられる。コグニサイズは認知症予防のためとは言え、MCI の人達にとってこれを続けるのは結構大変ではないだろうか。一方、電子キーボードの演奏では音楽的楽しみが得られることから、それを好む高齢者にとってはよりなじみ易いものと思われる。更に縦線譜を用いることでより広い高齢者を対象とすることが出来、有酸素運動の要素も意識して取り入れる事により、MCI の認知障害を遅らせる効果を持つ、より汎用性の高い演奏プログラムを開発できるかも知れない。

参考文献

1. B. Bittman et al: Composite effects of group drumming music therapy on modulation of neuroendocrine-immune parameters in normal subjects. J Altern Ther Health Med, 2001; 7: 38-47
2. M. Wachi et al: Recreational music-making modulates natural killer cell activity, cytokines, and mood states in corporate employees. Med Sci Monit, 2007; 13(2): CR57-70
3. B. Bittman et al: Recreational music-making modulates the human stress response: a preliminary individualized gene expression strategy. Med Sci Monit 2005; 11(2):BR31-40
4. Takao Suzuki, Hiroyuki Shimada et al.: Effects of multicomponent exercise on cognitive function in older adults with amnesic mild cognitive impairment: a randomized controlled trial. BMC Neurology 2012, 12:128

ポスターセッション

とき・ところ

- ・ 大会受付時 10:00～10:30（芸術館ロビー）
- ・ 昼食時および午後の休憩時（2号館 3F 廊下）

発表者・話題

- P-01** 市川 侑乃（電子オルガン奏者）
「Electone recital vol.4」への経過 *学会 H.P.「会員情報」参照
- P-02** 飯島 渉、結束 麻紀（学芸大学院生）
「音楽づくりにおけるタブレット端末の活用」
- P-03** 楠田 しおり（電子オルガン奏者）
「電磁カクテル」 *学会 H.P.「会員情報」参照
- P-04** 齋藤 康之（木更津工業高等専門学校）
「タテ線譜と自動伴奏システムを併用したピアノ練習」
- P-05** 坂井 康二（厚木市いきいきサポーター）
「老人ホーム入居者 104 歳ほかと電子キーボード」
- P-06** 西山 淑子（昭和音大）
「初心者のピアノコンチェルト曲集」 *学会 H.P.「会員情報」参照
- P-07** 森松 慶子（ライター、演奏・作編曲家）
「音の出口（スピーカの配置、共演者・聴衆の聞こえ方）」 *学会誌 Vol.10 参照
- P-08** 岩倉 聖月、田丸 智也、沖野 成紀（東海大学院生）
「今の若者にとって電子キーボード音とアコースティック・ピアノ音に違いはあるか
～NIRS による脳血流測定～」

<海外参加>

- P-09** 曾 夢（ソ ユメ。上海音楽学院）
「中国関連の電子オルガンイベント紹介(2014～2015)」
- P-10** ハン・ヨンヒ（Han Younghee ソウル教育大学）
「12 回続いている電子ピアノオーケストラコンサートシリーズの紹介」
- P-11** マーク・マンノ（Mark Manno 台湾・東海大学）
「アメリカのグループピアノ教材による ML 教室を用いたレッスン紹介」 *学会誌 Vol.6 参照

P-01

市川 侑乃（電子オルガン奏者） 「Electone recital vol.4」への経過 ＊研究発表④



12月10日に、両国門天ホールにて電子オルガンのために書かれた第4回目のコンサートを開く。

ここで、第4回に至るまでの経緯を簡単にプログラム内容で紹介したい。このコンサートシリーズは電子オルガンのためのレパートリーを増やしたいと思い企画し始めた。今までに現代音楽の作曲家に委嘱する他、十年以上も演奏されていない過去の電子オルガン作品の名作を再演している。昨年からのシリーズが始動し年に2回開催しており、次の開催が4回目となる。今回委嘱をお願いしている作曲家は山根明季子氏、川上統氏。再演は野田暉行氏、夏田昌和氏の他、第1回目で委嘱をお願いした桑原ゆう氏の作品を改定再演予定。

日時：2015/12/10（木）

時間：開場 18:30 / 開演 19:00

出演：市川侑乃（電子オルガン奏者）

料金：2,500 円

予約：electone.classicat@gmail.com

<http://www.yukinoichikawa.com>

P-02

飯島 渉、結束 麻紀（東京学芸大学大学院） 「音楽づくりにおけるタブレット端末の活用」

近年、情報化の進展を背景として、教育現場でも ICT（Information and Communication Technology）の活用が図られている。現行の学習指導要領においても、情報教育や授業における ICT 活用など、学校における教育の情報化について一層充実を図ることが明記されており、それを受けて平成 25 年には学校における ICT 関連教材等の教育環境の充実を図る旨の計画が閣議決定された¹。また、ICT を活用することにより児童生徒の集中力、学習に対する積極性、意欲、学習の達成感などが上がるという効果が認められた調査結果もある²。

そこで本研究では、特に小学校音楽科における音楽づくりの活動に関して、ICT の中でもタブレット端末の活用に関心をもち、その効果と問題点について検討した上で、具体的な授業案を提案することを目的とする。タブレット端末は児童一人一人がパソコンよりも手軽に扱うことができ、また楽器が弾けなくても簡単に作曲できるといった利点があり、児童の積極性や意欲を喚起することができるものと考えられる。

そうした利点を生かし、本発表では iPad の代表的な音楽制作アプリケーションである「GarageBand」を用い、I・IV・V・I の和音進行を学習した上で、内蔵音源や Autoplay の機能等を使いながら、8 小節の音楽をつくっていく活動を提案する。

¹ 文部科学省（2013）「第 2 期教育振興基本計画」

² 文部科学省（2008）「ICT を活用した授業の効果等の調査」

P-03

楠田しおり（電子オルガン奏者）

- 電子オルガン×ソロダンスのユニット -

電磁カクテル

一人の電子オルガン奏者と一人のソロダンサーによる、不思議で斬新なパフォーマンスをお届けするユニット。
“全てオリジナル作品”をモットーに、2015 年秋に結成しました。

作曲・演奏 楠田しおり
ソロダンス 小林菜々



今後の予定

2015 年 12 月 関内ホールにてロビーパフォーマンス

2016 年 2 月 「Electonism Vol.3」出演予定

YouTube にも新作を随時公開予定です

YouTube

検索

電磁カクテル

※第一作「夢の芽」が公開中！

P-04

齋藤 康之（木更津工業高等専門学校）

タテ線譜と自動伴奏システムを併用したピアノ練習 *研究発表③

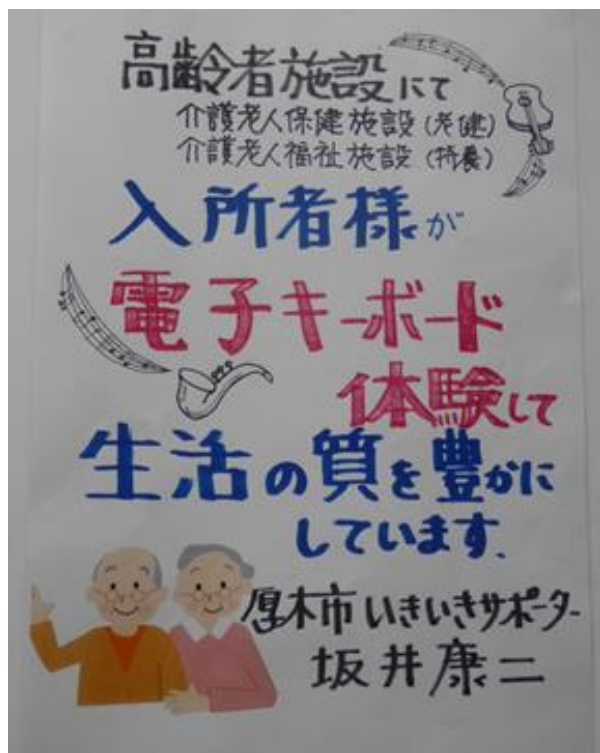
タテ線譜は、昭和音楽大学の阿方 俊 先生によって発案されたピアノ初心者向けの新しい楽譜表記方法である。音高を表す円形の「節」と、節と節を連結する「枝」で構成され、節内に記されている指番号の通りに順番に鍵を叩くだけで正しい運指で楽曲を演奏できる。タテ線譜は非常に分かりやすいので、極めて短い練習時間で両手での演奏を可能にするが、複雑な伴奏をつけるには相応の練習が必要である。これに対し、自動伴奏システム Eurydice（ユリディス）に左手パートの演奏を担当させれば、演奏の負荷を軽減しつつ、ピアノ演奏の楽しさが増すと考えられる。

Eurydice は、あらかじめ与えられた楽譜に対し、演奏者の演奏位置を推定して伴奏を演奏する。弾き誤り（音階誤り、余分な音の挿入、必要な音の欠落）、テンポの揺らぎを許容する。さらに、任意の楽譜位置へのジャンプを許す世界初のシステムであり、同じ箇所の弾き直しや、繰り返しの省略、練習したい途中の楽譜位置へのジャンプなどに追従するため、練習に最適といえる。その他、(1)左右の手の役割を交代して、左手の伴奏パートを演奏者が演奏し、Eurydice がメロディを担当する、(2)演奏者が両手で演奏し、Eurydice がオーケストラ・パートを演奏する（ピアノ協奏曲）、(3)伴奏の楽器音を消音する、という使い方ができる。(3)は、たとえば、ヴァイオリンは生楽器、ピアノの演奏に追従する形で Eurydice がチェロを担当（ヴァイオリン・パートは消音）といった「楽器補完」をすれば、2名の演奏者でピアノ・トリオの演奏が可能である。

タテ線譜と Eurydice を併用することで、ピアノ初心者への演奏導入を円滑化できるであろう。木更津高専のオープンキャンパスや国際ワークショップ IWEEE2015 でタテ線譜と自動伴奏システムを併用した演奏体験をしてもらったところ、全員が楽曲を最後まで演奏でき、大変好評であった。本ポスターセッションでも実際にデモを行うので、多くの方に体験して頂きたい。

P-05

坂井 康二（厚木市いきいきサポーター）
施設入居者 104 歳ほかと電子キーボード



歌って、電子キーボードでリズムを取る 104 歳



P-06

西山 淑子（昭和音楽大学）
初心者のための「ピアノコンチェルト」曲集 *JSEKM 会員情報を参照



ピアノを音楽的に奏でる時に大切なブレス、アインザッツ、フレージングといったことが自然にできるようになるためには、小さい時からアンサンブルに慣れることが必要です。

この曲集は、ピアノを始めたばかりの子どもでもアンサンブルできるように、「片手だけ」「簡単な両手」レベルからソナチネ程度までのレベルのピアノに電子オルガンでオーケストラサウンドの伴奏をつけたものです。

お互いに目を合わせ、合図を送りながら演奏するというのが普段のレッスンの中でもできるように、電子オルガンは1台用に編曲して

あります。

アサンブルは、ピアノ連弾でもできますが、電子オルガンの多彩な音色、持続音を使うと、世界は格段に広がり、プラスα効果は計り知れません。電子オルガンのピアノレッスンでの活用法として広めたいものです。まずはピアノ・電子オルガンの先生方にこの作品を知っていただくために『コンチェルト体験会』を行っています。

曲目は、きらきらぼし、メリーさんのひつじ、かえるのうた、ちょうちょ、ヤンキー・ドゥードゥル、聖者の行進、バイエルコンチェルト、ブルグミュラー、ソナチネ、発表会の定番曲などです。詳細は、<https://www.yoshikonishiyama.com/movie> をご覧ください。

P-07

森松 慶子（ライター、演奏・作編曲家） 音の出口（スピーカの配置、共演者・聴衆の聞こえ方） ＊学会誌第 10 号参照

ネタ帳より抜粋・・・

☆聴き手の耳に届くまでが“演奏”

☆音楽的な音量バランスは、演奏家自身が状況を把握し、コントロールしたい

☆せっかくの生演奏なら、奏者も聴衆もひとつながりの音響空間にいて時空を共に

☆スピーカーの音の方が生楽器の音よりいつも大きいわけでもない！？

☆間接音って大事だ、と今更ながらに気がついた

☆電子楽器以外の共演者ともよくコミュニケーションをとって、一緒に響きを作ろう

☆それぞれの人が個々に工夫していることを共有できたらいいな

等々、現在進行形で試行錯誤中の素材でお店を広げております。

足をとめて頂いた方々にもいろいろ教えて頂ければ大変有り難いです。

同じテーマでランチタイムミーティング（3階音楽教育講義室1＝電子Org パネルディスカッション部屋）も開催致しますので、よろしかったらお弁当お持ちになってお越し下さい。

P-08

岩倉 聖月*、田丸 智也**、沖野 成紀***

（*東海大学大学院生、**東海大学高輪教養教育センター、***東海大学教養学部）

今の若者にとって電子キーボード音とアコースティック・ピアノ音に違いはあるか
～NIRSによる脳血流測定～

電子オルガンはテクノロジーの進歩によって出来ることも増えた反面、それでも解決されない根本問題のあることが、電子オルガン関係者によって指摘されている。例えば、レジストレーション、アイデンティティの問題である。

レジストレーションの問題とは、電子オルガンが固有音をもたないがゆえに、頻繁な音色チェンジがその機械的表層的な効果ばかりを強調する結果に至る危険性であり、アイデンティティの問題とは、やはり固有音をもたないがゆえに、その正反対である多音色に走り、クラシック界でも代用楽器として一定のシェアを得たもののそれ以上の展望がもてないという危機感である。

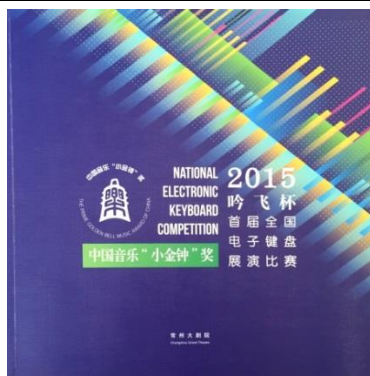
では、固有音さえあれば、問題は解決するのか。また一方で、スピーカー選択まで含めて電子オルガンの音響面を追求すべきという意見もある。しかし、そもそもスピーカー発音楽器がアコースティック楽器と「同じ地平に立つことができるのか」。ポピュラー音楽やジャズはともかく、いまだアコースティック楽器が主流のクラシック音楽では、スピーカー発音楽器との間に、拭いきれない知覚・認知上のギャップがあるのだろうか。それとも、CD や YouTube での聴取が一般化した現代の、特に若者にとっては、もはやギャップはないのだろうか。

そこで大学生の被験者に、グランドピアノやパイプオルガンと、エレクトーンのピアノ音やオルガンを、可能な限り条件を揃えて比較聴取してもらい、そこに知覚・認知上何らかの違いがあるのかわかるのか、NIRS で脳血流を測定することで検証してみたい。

P-09

曾 夢 (ソ ユメ : 上海音楽学院)

中国関連の電子オルガンイベント紹介(2014~2015) * 研究発表①



National E.K.B. Competition
The Prime Golden Bell Awards



2015/5 上海の春国際音楽祭



ハルビン E.O.実践音楽会



日中電子オルガン交流音楽週間

P-10

ハン・ヨンヒ (Han Younghee : ソウル教育大学)

12 回続いている

電子ピアノオーケストラコンサートシリーズ紹介



写真右は、2014 年 12 月、ソウル教育大学 ML 教室の学生コンサートに教員の電子キーボードアンサンブルが演奏。 * 研究発表⑧



P-11



マーク・マンノ

(Mark Manno : 台湾・東海大学)

アメリカのグループピアノ教材による
ML 教室を用いたレッスン紹介 *研究発表⑧

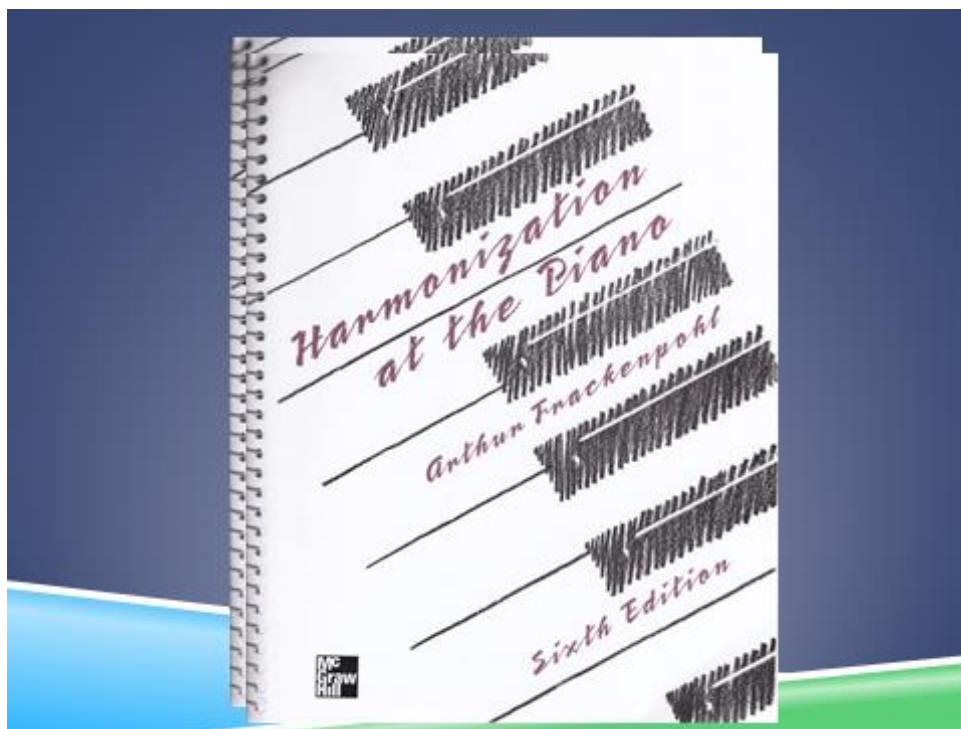
約 25 年間、私はアーサー・フラッケンポールのテキスト、Harmonization at the Piano を鍵盤ハーモニーで使用してきた。この間、多くの新しいテキストが出版されたが、この本は音楽専攻の学部生のキーボードスキルのためのもっともよいテキストであり続けている。



東海大学の ML 教室授業風景



M.マンノ教授指導風景



一段電子キーボードによるハイブリッド・オーケストラの可能性

中地 雅之（東京学芸大学）

本研究コンサートでは、東京学芸大学の授業およびゼミで実践している、電子楽器とアコースティック楽器によるハイブリッド・オーケストラの活動から、プログラムを構成致しました。本学に電子キーボード専攻科はありませんが、器楽アンサンブルの活動において、さまざまな形態で電子楽器を活用しています。本日は、電子楽器を欠くことができない「ポピュラー音楽」、さらにクラシックの「バロック」「古典派」「ロマン派」各期の作品を取り上げます。

ポピュラー音楽の2曲は、都内の小学校での訪問演奏で演奏したもので、フュージョンとハリウッド映画音楽です。バロック期の音楽としては、J. S. バッハの「チェンバロ協奏曲」を電子キーボード6台で演奏致します。さらに、ロマン派のオーケストラ作品である「くるみ割り人形」は、総譜を全員が見ながら楽器の分担や工夫を行い、スコア・リーディングの演習を兼ねて大学院生が取り組んだもので、管打楽器を加えた編成となっています。

古典派の作品としては、W. A. モーツァルトの「3台ピアノのための協奏曲」を演奏致します。独奏ピアノ3台はグランド・ピアノで、オーケストラパートは電子キーボードと弦楽器によるアンサンブルで演奏致します。3名のピアニストをお招きし、一流の演奏家と学生が共演する機会のひとつとして、ハイブリッド・オーケストラによる協奏曲を企画しました。

電子キーボードオーケストラによる、多様な表現の可能性をどうぞお楽しみください。

プログラム

和泉宏隆：宝島

A. シルヴェストリ：Back to the Future

J. S. バッハ：チェンバロ協奏曲 第1番 第1楽章
d-Moll BWV1025

P. I. チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」Op. 71a より

W. A. モーツァルト：3台のピアノのための協奏曲「ロンドロン」へ長調 KV 242

ピアノ：ロルフ・ブラッグ（ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授）、高澤ひろみ（東京学芸大学教授）、椎野伸一（東京学芸大学教授）

ハイブリッド・オーケストラ：東京学芸大学
大学院生・学部生

企画・アンサンブル指導：
中地雅之（東京学芸大学教授）

楽器提供：ヤマハ株式会社

東京学芸大学 国際交流演奏会2015

会場：東京学芸大学芸術館 学芸の森ホール

11/15

16:40開場 17:00開演
Japan Society for Electronic Keyboard Music (JSEKM)

日本電子キーボード 音楽学会 第11回全国大会 コンサート

ピアノ独奏
ロルフ・ブラッグ（ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学教授）
高澤ひろみ 椎野伸一（東京学芸大学教授）

ハイブリッド・オーケストラ
東京学芸大学大学院生・学部生
企画・アンサンブル指導
中地雅之（東京学芸大学教授）

W. A. モーツァルト
3台のピアノのための協奏曲「ロンドロン」へ長調 KV 242
P. I. チャイコフスキー バレエ組曲「くるみ割り人形」Op. 71aより
A. シルヴェストリ：Back to the Future
和泉宏隆・宝島

Gakugei Bläser Philharmoniker 学芸ブレーザー・ フィルハーモニカー 第4回演奏会

11/22

14:30開場 15:00開演

指揮
山本訓久（東京学芸大学教授）

ピアノ独奏
ロルフ・ブラッグ（ザルツブルグ・モーツァルテウム大学教授）

会場
学芸フィルハーモニア・コア

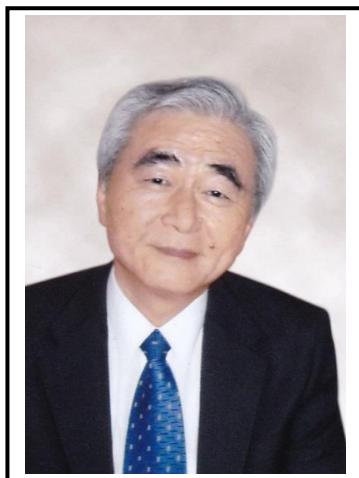
F. オーベール（山本訓久作曲）
歌劇「ボレティの物語」序曲（1828）
H. バンツ（ディエス・ナタリス）（1857/78）
E. ストラヴィンスキー ピアノと管楽器のための協奏曲（1924）
F. J. コゼツク（山本訓久校訂）大序曲 ハ長調（1784）（原典版）
H. ベルリオーズ 葬送と凱旋の大交響曲 Op. 15（1840）

© 11/22 学芸ブレーザー・フィルハーモニカー第4回演奏会の入場整理券は
10/26より東京学芸大学・正門守衛室にて配布

入場無料 11/22のみ入場整理券
10/26より本学正門守衛室にて配布（先着250名）

東京学芸大学音楽・演劇講座主催（15日）共催（22日）
日本電子キーボード音楽学会主催（15日）
お問合せ：東京学芸大学音楽事務 042-329-7740

日本電子キーボード音楽学会
事務局長 阿方 俊



8月21日夜、携帯電話に生頼さんから2度の着信記録があり、こちらから電話をしたところ、「実は癌が胃から前立腺、肺、骨へと転移している。11月の大会は大丈夫だが、将来のために若い人に手伝って欲しい」とのこと。夏休み前に会った時にはそのような様子にはまったく見えず、今回の電話の受け応えも普段と変わらない声だったので、「事務局の若返りはよいとして、冗談はよせよ」といったが、その4日後に生頼さんは急逝した。あれから2ヶ月余り経ったが今でも信じることができない。

振り返ると、生頼さんには11年前の日本電子キーボード音楽学会設立時から事務局の実務関係を一手に引き受けていただいた。以前、彼はヤマハ音楽振興会浜松支部や第二の故郷と言っていた台湾でヤマハ音楽教室の責任者として膨大な仕事をこなしていたので、学会の仕事が加わったからといって負担になったような素振りはなく、マイペースで淡々と業務をこなしていた。事務局内の私との業務分担を政府に例えると、内閣府に当たる幹事会のもと、彼が総務省や財務省、私が文科省や外務省的な仕事の分担に置き換えることができる。従って生頼さんが急逝されたことは、財務管理や総務の仕事を担当する人が、突然不在になったことを意味し、国民生活が成り立たないことに匹敵する事態に陥っているといえる。しかし、ご葬儀後に奥様の美砂恵夫人から送られてきた事務局の関係資料に一枚のCDがあり、このCDに学会設立時からの会員動向、財務状況が克明に記録されていた。本日の総会は、これを土台に成り立っているといっても過言ではない。内容は大変よく整理されたものであり、本学会の今後の拠りどころとなるものである。

本年、日本電子キーボード音楽学会も第11回を迎えることになったが、設立からの10年間、彼のご尽力と貢献はことばに表し尽くせない。只々感謝の限りである。

現在の学会運営の状況は、双発の飛行機の片方のエンジンが止まった状態に等しいが、生頼さんが残して下さったCDをマニュアルとして、一時的に止まったエンジンを一日も早く復調させ順調な飛行に戻りたい。

私達の活動を天国から見守っていただきたいものである。

日本電子キーボード音楽学会
(2015年11月)

＜幹 事＞

代表	出田 敬三	平成音楽大学
副代表	下八川共祐	昭和音楽大学
	小倉隆一郎	文教大学
事務局長	阿方 俊	昭和音楽大学
幹 事	赤塚 博美	洗足学園音楽大学
	石井 裕司	東京学芸大学
	大串 和久	淑徳大学
	金銅 英二	松本歯科大学
	柴田 薫	昭和音楽大学
	田中 功一	立教女学短期大学

＜名誉幹事＞

高萩 保治 東京学芸大学名誉教授

＜会計監査＞

古田 政伸 横浜アオバ楽器
宮本 賢二郎 浜松学芸高等学校

＜第11回大会実行委員＞

実行委員長	中地 雅之	東京学芸大学
実行副委員長	石川 裕司	東京学芸大学
実行委員	森尻 有貴	東京学芸大学
	阿方 俊	昭和音楽大学：事務局長
	小倉隆一郎	文教大学
	金銅 英二	松本歯科大学：大会要項
	柴田 薫	昭和音楽大学
	田中 功一	立教女学院短期大学
	森松 慶子	学会誌
	五十嵐 優	昭和音楽大学、事務局補佐

＜団体会員＞

国立音楽大学
昭和音楽大学
平成音楽大学
浜松学芸高等学校

＜賛助会員＞

ヤマハ株式会社
株式会社コルグ
ローランド株式会社
菅波楽器株式会社
株式会社松栄楽器店
株式会社ミュージックトレード
INA INTERNATIONAL